

【全体概要】

- 本県では、7月下旬～お盆前の需要に対応できるナシは少ない。また、晩生の「新高」では収穫期の高温により果肉障害が発生し品質が低下している。
- 極早生の「はつまる」「香麗」、晩生の「甘太」などの優良品種を導入し、極早生～晩生までの商品性の高い品種構成を確立し、生産振興を図る。
- 作業姿勢の改善と軽労化、早期成園化が図れる低樹高栽培、初期費用を抑制する低コスト果樹棚の実証と普及に取り組み、新規栽培者を確保する。

新品種・新技術等の概要

○極早生品種

「はつまる」：農研機構の育成品種。「幸水」より20日程度早く収穫できる。
「香麗」：神奈川県で育成品種。「幸水」より2週間程度早く収穫できる。本県で13aを栽培。

○晩生品種

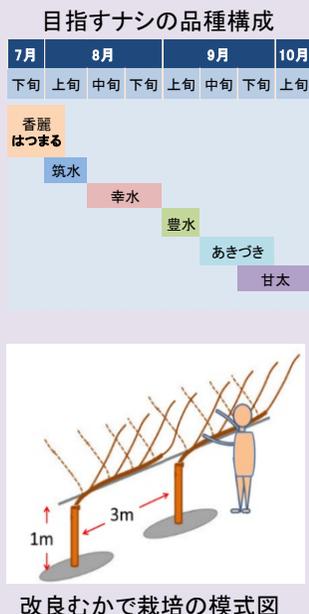
「甘太」：農研機構の開発品種。果肉は「幸水」並みに柔らかく肉質は良好、食味も濃厚で、「新高」に代わる品種。本県で12aを栽培。

○低樹高(改良むかで)栽培による早期成園化

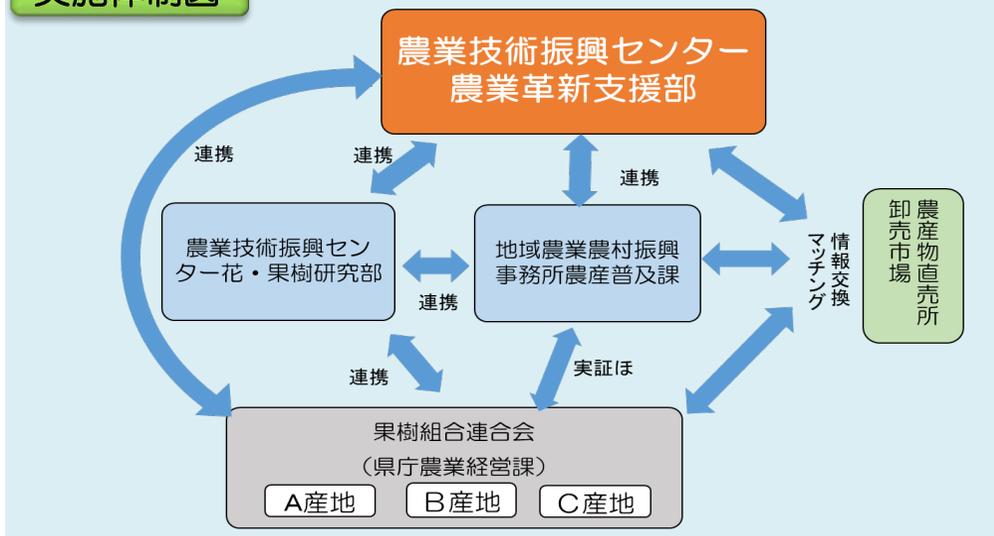
1年間育成した大苗を10a当たり100本程度植栽する。植栽して2年目から収穫でき、3年目には2t/10a程度の収穫ができる。

○低コスト果樹棚の導入

直管パイプを加工して低樹高栽培用の果樹棚を作成し、初期費用を抑制する。



実施体制図



課題と今後の対応

- ・ 極早生品種の「香麗」「甘ひびき」、晩生品種の「甘太」を優良品種として選定できた。「はつまる」については、果実重が他品種より劣り、品種導入は困難である。
 - ・ 市場や直売所との情報交換では、7月下旬からお盆までの需要が確認できた。
 - ・ パイプハウスを活用した果樹棚の部材費は約43万円/10aで、既存の平棚と比較して低コストを実証できた。大苗育苗施設の部材費は、100本育苗規模で約13万円となり、他県の事例より低コストを実証できた。
- <今後の対応>
- ・ 選定した優良品種について、研修会を通じてPRし普及を図る。
 - ・ ナシ低樹高栽培技術や低コスト果樹棚の技術の普及に向けて、マニュアルを作成する。

主な取組内容

- ・ 極早生品種、晩生品種の品種特性や収穫時期、果実品質を把握するために、2地域で実証ほを設置。
- ・ 優良品種を選定するために、試食会を開催。
- ・ 品種選定や生産振興に向けて、市場や直売所との情報交換
- ・ 新規栽培者の確保を目指し、パイプハウスを活用した果樹棚(1地域)と大苗育苗施設(1地域)の実証ほを設置。
- ・ 実証ほを活用した現地検討会の開催と、県域の生産振興大会の開催